

DATA FILE



斜方晶系

名前	VARISCITE (バリシアイト) / バリシア石
化学組成	$\text{AlPO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$
色	無色～緑色
光沢	ガラス光沢、脂肪光沢
蛍光	なし
条痕	無色
劈開	良好
断口	不規則
硬度	3.5 ~ 4.5
比重	2.6

バリシア石

VARISCITE

ガラスのような光沢を持つが、緻密な結晶の集合体では脂肪のような光沢になる。

鉄を微量に含んだ、緑色のバリシア石。

劈開は完全で、ハンマーでたたくと不規則な断口を示す。

微細な結晶が皮殻状や球状の集合体になってあらわれる。また、まれに八面体の結晶で産することもある。

石英、銀星石、クランダル石、メタバリシア石、燐灰石などと共生する。

鉱物名は、ドイツにある原産地の古い地名「バリシア」にちなんで名づけられた。



▶脂肪のような光沢があらわれたバリシア石。



取り扱いに要注意

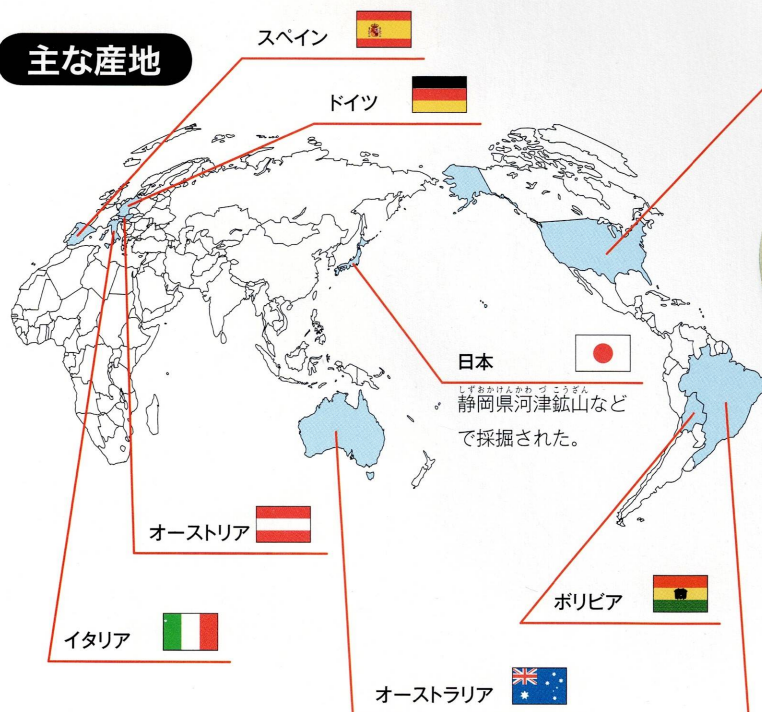
バリシア石は、磨くことで緑色の独特な色合いが失われることがあるうえに、手の油やアルコールなどを吸収し、色が褪せる場合もあるので要注意。また、熱に弱い性質を持つので、慎重に取り扱うことが大切だ。

間違えられやすい鉱物

微細な結晶の集合体であられ、まれに八面体の結晶形が見られることもあるバリシア石は、やわらかく傷つきやすいため、装飾品には利用できないが、鑑賞用の宝石に加工される。結晶が緑色になるのは、化学組成中のアルミニウムの一部が微量な鉄に置き換えられるため。色合いの似たアマゾナイト、珪孔雀石、トルコ石などに間違えられやすく、かつてオーストラリアのクイーンズランド州で発見されたものが、バリシア石だとは気づかれず、誤って「オーストラリア・トルコ石」と名づけられてしまったこともあるという。また、共生するメタバリシア石とは多形の関係で、化学組成は同じだが、バリシア石は斜方晶系、メタバリシア石は単斜晶系と、結晶構造が異なっている。

主にアルミニウムを含む岩石とリン酸を含む熱水の作用で生成したり、熱水鉱脈中の空隙から産出するバリシア石は、世界各地で見つっているものの、その量は少ない。ちなみに、日本では金銀鉱脈の空隙に小さな針状結晶の集塊で産したことがある。

主な産地



アメリカ



ネバダ州やユタ州で質の良い結晶が産出する。

▼ガラスのような光沢があらわれたバリシア石。

